

た か だ こ ら む

メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2018 プラントメンテナンスショーに出展

当社は、製鉄・化学・石油化学など様々な産業分野において設備の設計から製作、建設、メンテナンスまで行っています。その中でもメンテナンスについては『最適整備』をコンセプトとし、国内最高レベルの診断技術をはじめ、これまでの現場対応で得られた経験やデータを基に開発した各種メンテナンス技術を駆使し、短工期で高品質のサービスをお客様へ提供しています。

今回のプラントメンテナンスショーでは、当社のメンテナンス技術の中から、「電流情報量診断システム」、「破壊と損傷の解析技術」、「大口径配管の内面検査」を展示・紹介いたしました。

展示会では、技術を紹介するだけでなく、お客様が抱えられている課題や要望を直接お聞きすることができ、大変貴重な機会となりました。当社の技術が課題解決のお役に立てるよう、またお客様のご要望に応じていけるように今後も継続して、技術開発に取り組むとともに、挑戦し続けていきたいと考えております。

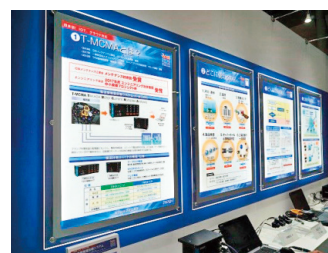
須本 賢太朗 （技術本部 診断サービス技術部）

展示・紹介した技術概要

電流情報量診断システム	モータに流れる電流を計測し、回転機の状態診断を行う技術であり、常設タイプと携帯タイプの装置を販売しています。 化学プラントのお客様を中心に、設備の定期的な状態モニタリングや異常発生時の精密診断に使われています。
破壊と損傷の解析技術	応力腐食割れや微生物腐食など、お客様の設備で発生した金属材料の破壊や損傷の原因を究明し、対応策や改善策の提案を行い、施工しています。
大口径配管の内面検査	ファイバースコープなどでは検査の難しい大口径配管内の劣化状態を確認するための装置を、ロボットメーカーと共同で開発しました。 従来の水平走行のロボットと異なり、本装置の自走式ロボットは垂直部およびエルボ部を走行・停止でき、ロボットに搭載したカメラを水平方向に360°回転させて配管内面を検査します。



展示ブース



パネル展示